

切手の日誌

Stamp Diary



2011年2月号

2月1日（ルーマニア）

ルーマニアのコジョカル氏から第2弾が届く。私は自信薄ながら、最新入手の香港やアジア諸国いろいろと未使用の日本シート（お年玉切手含む）数枚、2010年発行の切手など100枚ほど頑張った返信がこれであるが、またもコジョルカ氏は130枚近くも送ってくれた。封書もなかなかのラインアップで、郵便受けで見つけたとき、思わず嬉しくなった。



今回もCT0が多いようだが、北朝鮮も入っていた。共産圏時代の名残りだろうか。まだ先方のコレクション形成の経緯は不明ですが、やはり旧共産圏諸国が多そうだ。

今月の表紙は頂いた北朝鮮シリーズですが、外貨稼ぎの切手でしょうな。

2月2日（日本1999）

先月も紹介したマイブーム「日本の民家シリーズ」よりの紹介である。早速コツコツ集めようかとYahoo!オークションで検索したところ、なんとあっさり全11種300円で発見し、これまたあっさり落札できてしまった。様々な切手が出品されているが、これほど効率良いのはまれである。



少し寂しいが、良しとしよう。まだまだ関心高い切手はいろいろあるのだから。

2月3日（フランス）

コジョルカ氏から遅れること数日、フランスのジョゼからも第2弾が届く。しかも手紙付きで、なんと！ジョゼは中年手前のおっさん（切手趣味となると、こう想像してしまう）と思い込んでいたが、三児のママであることが判明した。そして、ご主人は英国式パンケーキ職人でお店（手紙曰くレストラン）を持っているとのことだ。



残念ながら封書のインパクトは前回に比べ少し平凡になってしまった。内容も小粒揃いであるが、早く日本の整理を終わらせてヨーロッパにどっぷり取組みたい…と思わせた。ということで、詳細報告はいずれまた。

2月4日（アメリカ1969）

Yahoo!オークションで「日本の民家シリーズ」を探していて、うっかり入札してしまった。この年代に関心寄せているから、ほとんど迷わなかった…。

アメリカ使用済み、1968-1973 50種 200円



カタログには”Old Models”というタイトルがついている。W.M.Harnettという画家の作品でしょう、カタログ見て「欲しいな」と思っていたが、これまた簡単に手に入ってしまったことで少し拍子が抜ける。

否、切手収集は安く簡単に楽しませてくれる反面、ハマれば泥沼のごとく手間暇を要求され散財させられるに違いない。

2月5日（中国1988）

切手のフリマに行ってみる。



1988年発行の石窟芸術4枚シリーズからの1枚でこれは「龍門石窟の仁王像」とのこと。残念ながら今回は4枚シリーズのうち2枚しか見つけることができなかった。中国らしい題材で、少し安っぽく（失礼！）否シンプルで結構個人的には好きなタイプだが、これは私の愛もつけてルーマニアのコジョルカ氏へ送るとする。

2月11日（日本1964）

珍しく東京にも雪が降る。お休みの日で助かった、昨日でなくてよかった。仕事で7cmヒールの靴はいて外出もしたから、そういう日に朝から雪降っていたら人生恨めしくなってしまう。

雪降った休みの日だからと切手ばかりしていた訳ではないが、空き時間ができては現在仕掛かり中の日本切手の再整理を組む。ようやく1990年代までやってきたが、今回は1960年代から何枚か紹介する。私はどこの国でもこの時代の切手が一番好きだ。



言うまでもなく、1964年発行の東京オリンピックである。この濃淡のある紺青と炎の赤がシックでエレガントだと思いませんか？ 日本も今みたいな閉塞感グューグューな状況でなく、（生まれていないのでわかりませんが）きっと自信たっぷりの日本だったに違いない。

2月12日（日本1965）

もともと朝は得意でないが、休日の朝は幸せである。それほど会社を毛嫌いしていないが、予定のない朝に飲むコーヒーから自由を感じずにはられない。とは、オーバーか。



今日一枚はこれ1965年発行「耳鼻小児科会議」、タイトルそのままのデザインであるが、そのベタまでなデザインが素直でわかりやすく微笑ましいと思っている。

昨日の紺青もそうだが、この小豆色も和色（こんな単語あるか？）らしくてオリジナリティーがあると（自己）満足している。

普通郵便10円と思われる時代に、額面30円は意図はなんだい！？

2月13日（日本1966）

晴れ間も覗く。雪から一転し、太陽が顔を見せると春が来たかと前のめりな気分になる。冷静に落ち着くと、まだ結構寒い。

1980年代になると、絵柄に妙なりアリティーやら自意識過剰なデザイン性が出てきて、変に面白くなくなる。今、コツコツとコレクションの再構築（ようするに整理）作業を進めているので、来月にでも自意識過剰な1980年代を紹介しようと考えている。連休紹介の最後の一枚はこれ1966年発行「がん制圧運動」。この黄土色、とってもストレート過ぎる。



それに実写、真ん中に「がん制圧」。この実用本位の実直さは日本らしくないかな？

2月20日（チェコスロバキア1975）

すっかりお休みを取得し、松山観光に行ってきた。派手さはないが、のんびり東京にない地方独特の景色を地味に楽しむ。このジワあという自己満足がよい。

いきなりただの日記を書いたが、一昨年新宿の切手センターを流していたとき捕まったチェコの切手を紹介する。これがきっかけで、チェコが気になり出した。

1975年発行の熱帯魚シリーズとでもいうのか。5枚組なので、是非とも全部掲載してしまおう。





未使用である。この印刷感(?)がたまらない。よく見ると「J. LIESLER」とある。ふむふむとネットで調べてみると、英語版wikipediaにいたるではないか。

http://en.wikipedia.org/wiki/Josef_Liesler

Josef Liesler (1912-2005)はチェコのシュルレアリスム(超現実主義)の画家、グラフィック・デザイナー、イラストレーター、exlibris、郵便切手デザイナーとある。exlibrisってなんだ?とこれまた調べると、蔵書票とある。調べものはまずここ。

<http://ja.wikipedia.org/wiki/蔵書票>

(抜粋) 本の見返し部分に貼って、その本の持ち主を明らかにするための小紙片。より国際的にはエクスリブリスと呼ばれる。(抜粋終わり)

気に入ったこの画家、つい蔵書票を調べ始めてしまい… 結局アメリカeBayで何枚か落札してしまう。いっばしの美術品コレクター気分。詳細を書けば長くなるので、今回はこの辺までにするが、チェコ切手はなかなか美術品の宝庫だと自分に刺さってしまった始末である。

2月21日（チェコスロバキア1976）

先記述の熱帯魚シリーズに続き、Yahoo! オークションを流していて発見する。これもJ.LIESLERに違いないと。シュルレアリスムの雰囲気出ているではないか。



1976年発行のアンチ喫煙切手とでも言うのでしょうか、日本のふみの日切手みたいに、毎年絵柄を変えて発行している模様。いいね、これは。

ああ、早くどっぷりチェコ切手に浸かってしまいたい。

2月22日 (チェコ2004)

他にもJ.LIESLERを持っているが、次なるアーティストも見つけたくて見つけたのが、この人。Jiří Antonín Švengsbir (1921-1983) wikipediaにはいなかったが、イラストレーターという説明がある。この幻想的な雰囲気はプラハラしい。

プラハは一度だけいったことが、何だか歴史の澱が溜まったような、変な陽気さはないが静かな落ち着きある都市だと思った。旧共産圏だから(失礼にも)街は古くて汚いと思い込んでいたから、意外にきれいで驚いてしまった。



ČESKOSLOVENSKOの外側にČESKÁ REPUBLIKAとある。切手の切手ではないだろうが、入れ子構造になっている。

ちなみに昨年まで、私の上司(フェルド)はスロバキア人だった。少年の面影を残したシニカルな男性で、とても合理的で彼が納得しないことを納得させるには手強い相手であった。昼食時に街ですれ違ったりすると、めちゃくちゃ人なつこい表情を見せるお茶目な人である。組織変更があり、今は普通の日本人上司になってしまった。

左側にテーマらしき文章があるが、フェルドに訳してもらおうかな。